

## 指定管理者制度導入施設の第三者評価結果【対象年度:令和4年度】

### 1 評価対象施設

施設名	長野県立美術館	所管部・課	県民文化部 文化政策課
指定管理者	一般財団法人 長野県文化振興事業団	指定期間	令和3年4月1日～令和8年3月31日

### 2 評価者(敬称略,五十音順)

評価者名	役職等	備考
相澤 久子	公認会計士	専門家
柴田 薫	長野市文化スポーツ振興部文化芸術課長	地元市町村関係者
杉山 逸人	社会保険労務士	専門家
徳嵩 博樹	長野県美術教育研究会会長	利用者代表
西 一夫	信州大学教育学部教授	指定管理者選定会議構成員

### 3 評価の実施状況

年月日	場所	内容
令和5年12月19日 9:30～12:00	長野県立美術館 (長野市箱清水1-4-4)	令和4年度の管理運営状況及び県のモニタリング状況について

### 4 評価結果

※項目は施設の状況等に応じ加除修正してください。

項目	指摘・意見等	左記への対応方針
施設の目的に沿った管理運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>●基本協定書、仕様書及び年度計画書に基づき、施設の目的に沿った適切な管理運営が実施されている。</li> <li>●今後期待したい点として、近隣の高校生や大学生等が下校後や休日に立ち寄りたくなり、卒業後も心の拠り所となるような地域の重要拠点施設であってほしいと願う。</li> <li>●新たな施設での意欲的な自主企画等が見られ、利用者の誘致につながっている。そうした斬新な自主企画の立案・実施などを継続的に行ってもらいたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●引き続き指定管理計画書等に基づき適切な管理に努めますと共に、建築コンセプトであります「屋根のある公園」として、誰でも気軽に立ち寄り、芸術に親しむことができる施設となるよう努めてまいります。(指定管理者)</li> <li>●学芸員は、日々美術作品に触れ、美術情報・文献を収集し、創作の現場で作家から学ぶことによって企画力を高め、より良い企画・立案のため努力してまいります。(指定管理者)</li> </ul>
平等な利用の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>●障がいのある方や子育て中の方への配慮も行き届いており、誰もが利用しやすい環境整備がされている。「インクルーシブ・プロジェクト」やアートラボの取組などにより、さまざまな人が美術・芸術に触れ、創造の楽しみを感じられるような機会を増やしていただきたい。</li> <li>●各世代を意識した平等な利用の確保ができています。</li> <li>●ユニバーサルデザインで多様な利用者の受け入れに積極的である。ただし、案内ルートへの配慮がさらに施されることを期待したい。建物の構造として複雑故、慣れていない利用者には戸惑いが生じる可能性がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「インクルーシブ・プロジェクト」は、美術館がだれでも安心してアートと出会う場所になることを目指すプロジェクトです。だれもが美術館を訪れ、障がいの有無を超えて、アートを体験できるようなさまざまなプログラムを年間を通して開催してまいります。(指定管理者)</li> <li>●館内の案内表示については、出来ることから逐次改善を図っておりますが、今後もお客様や美術館モニターなどからのご意見ご要望を踏まえ、よりわかりやすい案内表示の設置、改善を図ってまいります。(指定管理者)</li> </ul>

<p>利用者サービス向上の取組</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>●コレクション展でのトーク、アートラボの体験実施、移動展などの取組がされていることは素晴らしい。</li><li>●多忙であるとは承知しているが、高校生の見学、職場見学などを更に誘致して長野県の文化レベルの標準を更に上げて頂きたい。また、それらの方々も含めた入館者に学芸員の方から日本画、その他についての研修が受けられるとさらに望ましい。</li><li>●利用者からの意見・苦情にも適切に対応がされている。また、展示に合わせた企画を通して利用者とのコミュニケーションも図られており、サービス向上に向けた取組が認められる。</li><li>●東京の美術館のように19時までの開館日を設ける等の工夫も検討していただきたい。</li><li>●来館者の交通事情に対する検討を期待したい。多様な利用者があり、年齢層も多様であることから公共交通機関、自家用車、徒歩など来館の手段はさまざまである。そうした利用者を快適に受け入れられるルートの確保が課題と思われる。長野市・善光寺などと連携をはかりながら、よりよいサービスの提供を実現してもらいたい。</li><li>●善光寺、城山公園周辺と一体的に魅力をPRしていくことで、さらなる利用者の獲得、利用者満足につなげて行っていただきたい。</li><li>●無料スペースがしっかりと確保されている素晴らしい施設であることから、外国からの観光客の来館者数を増やす企画の検討を含め、このよさを最大限に生かしながら国内外に誇れる長野のランドマーク的な存在を目指して欲しい。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>●ただ美術作品を展示して鑑賞してもらうだけではなく、より深い作品理解と、異なる新たな価値観の共有ため、ギャラリートークやアートラボでの触れる展示など、様々な取り組みを実施しています。(指定管理者)</li><li>●「スクールプログラム」として、県内小・中・高等学校を対象とした「自由鑑賞」、特別支援学校・特別支援学級を対象とした「オリジナルプログラム」を行い、若年層への働きかけを継続して実施しています。(指定管理者)</li><li>●美術館の敷地外への案内表示、標識の設置については、当該地の所有者、管理者のご理解ご協力が必要となります。今後も長野市や善光寺等関係機関と連携、協議しながら改善を図ってまいります。(指定管理者、県)</li><li>●善光寺や城山公園周辺施設と一体的に魅力を発信すると共に、夜間開館などの企画により多くの外国人観光客をはじめ県内外から多くの方が美術館に来ていただけるよう、文化観光事業の充実を検討してまいります。(指定管理者)</li><li>●インバウンド対応として、作品解説の多言語化も進めていきたいと考えています。(指定管理者)</li></ul>
<p>自主事業</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>●本館コレクションのクリアファイル、東山魁夷作品の折り畳み傘、御朱印帳、扇子等をミュージアムショップで販売したとのことだが、そのほかの自主事業の検討はされているのか。貴重な収入源となることから、その他の事業の検討をお願いする。</li><li>●館独自の魅力ある商品が開発されており、ミュージアムショップの充実が図られている。</li><li>●内容・規模ともに充実した自主事業が展開されている。今後も期待できる内容である。</li><li>●様々な視点を大切に自主事業が行われている。今後期待したい点として東山魁夷館とは異なる継続的な作家との連携を模索していただきたい。例えば広いエントランスや2階通路に来ればこの作家の作品に出会える等、リピーターとして一定数の来館者を増やす取り組みを検討していただきたい。この取り組みがやがて本館をイメージした時の象徴になると考える。色をつけない取り組みも必要だが、県立美術館でしか味わえない作家・作品の常設展示等も検討していただきたい。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>●文化観光推進事業等を活用し、美術館独自の商品開発を検討します。(指定管理者)</li><li>●建築コンセプトである「ランドスケープ・ミュージアム」を象徴する、中谷芙二子《霧の彫刻》を常設展示しています。当該作品は、自然との共生を考えさせる作品として知られており、自然豊かな長野県が常設するのに相応しいものと考えています。中谷氏の霧の彫刻を常設する、唯一の国内美術館として広く周知に努め、関連したイベントを的確なタイミングで継続的に実施することにより、リピーターの熟成に努めたいと考えています。(指定管理者)</li></ul>

職員・管理体制	<ul style="list-style-type: none"><li>●信濃美術館時代からの学芸員の方も多くいらっしゃると思われるが、長年学芸員を務めた方にはその方にしかわからないような知識があると思われるため、それらを若い方に継承できれば良い。</li><li>●仕様書及び年度計画書に基づき、適正に職員配置が行われている。</li><li>●過度な長時間労働等の実態はないと思われるが、日常的に時間外労働が発生しているような様子も見受けられることから、業務の効率化・集中化を進め、長時間労働の解消および働きやすい環境づくりに努められたい。</li><li>●法令の管理体制の徹底と並行して、職員一人一人の存在がかけがえのない財産であることを大切にした体制づくりを進めてほしい。個人の魅力やつながりで、「また来ようね」「また来たいね」と感じてもらえる美術館を目指すことで、作品の充実以上にこの学芸員から話を聞きたい、この職員の丁寧な対応のもとゆっくり作品を鑑賞したい等、職員一人一人の個性・魅力という視点から体制づくりのあり方を検討していただきたい。職員のやる気・生きがいが高まることで、法令等多方面の職員・管理体制の構築にもつながると考える。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>●長時間労働の解消に向け、ノー残業デーの実施、会議時間の短縮など時間外勤務の縮減や業務の見直しを進め、働きやすい職場を目指します。(指定管理者)</li><li>●学芸員の育成は全国的にも課題となっています。リニューアルに当たり、数多くの若い学芸員を雇用しましたが、学芸員間にもジェネレーションギャップが存在し、ともすれば世代間ですれちがいが起きがちでした。お互いがお互いを尊重し、支えあいながら、良い関係を構築して参りたいと思います。ひいてはそれが、良い事業開催につながり、本当の学芸員育成となっていくと考えます。(指定管理者)</li></ul>
収支状況	<ul style="list-style-type: none"><li>●委託業務の費用がやや高額であるような印象を受けるが、業務の特質上止むをえない気もする。</li><li>●収支状況に問題はなく、適切に運営されていると認められる。</li><li>●令和7年度以降の企画になるが、収入や入場者数が見込まれる企画を優先するのみではなく、県立美術館の使命・役割を大切にした県民から愛される美術館を目指してほしい。また、多くの世代が関心をもって楽しめる企画や県立美術館オリジナルのわくわくどきどきするような斬新な企画、継続して取り組む企画等を行い、県内外のリピーターを意識した息の長い取り組みを行うことにより、収支の安定を目指してほしい。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>●施設規模が大きくなったため、案内監視業務や施設の維持管理等に係る委託業務費用が高額になっています。配置人員の見直しや施設管理業務の一括発注などで経費節減を図っておりますが、昨今の人件費や原材料費の上昇等に伴い負担増が危惧されますので、内容を精査し、適正な予算執行を図ってまいります。(指定管理者)</li><li>●今後も入館料収入等の適切な見積りと収入の確保、経費の節減に努めます。(指定管理者)</li><li>●県民の「豊かで文化的な生活」と、「創造性あふれる人づくり」に貢献することを使命とする当館では、「鑑賞」「学び」「交流」「研究」を軸に様々な事業を実施しています。特に「鑑賞」においては、県立美術館として取り上げるべきテーマを、調査研究により深めた自主企画展を実施する一方、全国巡回の人気展をマスコミと共催で開催するなど、常時、収支全体のバランスを見ながら内容を組み合わせ、息の長い取り組みとして展開できるように努めています。(指定管理者)</li></ul>

<p>総合評価</p>	<p>●仕様書等の内容等についての成果があり、概ね適正な管理運営が行われている。</p> <p>●県のモニタリングが非常に重要になってくると思う。昨今、大企業であっても不正や事故は発生する。いかに有能な財団が管理していても誤謬や隠ぺいが発生する可能性があることを念頭に置き取り組んで欲しい。県立美術館が有する作品は高額及び希少な県の財産であることをよく踏まえてその管理(台帳や実物検査)をしっかりモニタリングしていくことを望む。</p> <p>●県立美術館として新たなスタートをした施設だけあり、意欲が感じられる。一方、新年早々の天災を思うと災害時の避難誘導など、災害訓練や誘導路の明確化など、今一度平時の見直しが大切と思う。</p> <p>●新築間もない施設であるが、5年、10年経過する中で、施設の保全・改修工事などが必要になってくる。予算獲得は厳しい状況とは思いますが、保全計画など整備する中で、計画的な改修を進めてほしい。</p> <p>●収蔵庫の容量を考えると、計画的な収蔵庫の増築なども計画的に進める必要がある。さらに収蔵庫の維持管理面での費用は経年によって増額する、そうした面も含めて委託事業として費用を捻出する必要がある。</p> <p>●県立美術館は、長野県民にとっての貴重な財産であり、県民が気軽に観覧できることに加え、文化芸術活動の発表の場としても使いやすい施設となるよう、引き続き努めていただきたい。</p> <p>●唯一の県立美術館であり、その社会的意義や責任も意識しながら、適切な管理運営がされていると見受けられる。一方で、集客力の高いコンテンツを用意し、県内外にPRしていくことも重要である。そのバランスを取りながら、今後も魅力的な企画展開を期待したい。</p> <p>●美術館とは地域の文化や子どもの感性をはぐくむ大きな使命があることを県民に広く周知していただきながら、県立美術館が県民の誇りになる施設になるように、10年後20年後のビジョンをもって対応していただきたい。</p> <p>●大学生までの子どもを中心とした企画を積極的に取り入れることで、他分野で活躍するきっかけを見付けたり、人生の喜びや自信につながったりする等の子どもの感性・内面をはぐくむ支援を大切にしてほしい。県立美術館の目的の具体に向けて県の財政支援を惜しまないでほしい。地道な取り組みがやがて子どもたちが誇りに思う長野県の具体につながるとともに、長野県立美術館への評価、長野県の魅力として何ものにも代えがたい真の利益・財産・評価になっていくと考える。</p>	<p>●引き続き適正な管理運営に努めてまいります。(指定管理者)</p> <p>●すべての収蔵作品が、指定管理者により適切に管理されていることを都度確認しながら、常に危機意識を持ってモニタリングを行ってまいります。(県)</p> <p>●定期的に消防訓練を実施するとともに、訓練の反省を次回に生かすなどして、非常時の対応能力向上に努め、お客様の安全確保や被害の最小化を図ります。(指定管理者)</p> <p>●災害時に迅速な連携ができるよう、日頃から非常時の対応を指定管理者、県はじめ関係者間で共有、確認してまいります。(県)</p> <p>●施設の現状把握を適時適切に行い、必要な修繕、改修費用については予算要求を行ってまいります。(指定管理者)</p> <p>●施設や設備の保全、改修については、緊急度を勘案しながら、指定管理者と協議の上、計画的に整備してまいります。(県)</p> <p>●美術館収蔵庫の問題は、全国的なものです。重要な美術作品を良い状態で後世へ残していくためには、ある程度の維持管理費用が必要という認識を持つべしと考えています。(指定管理者)</p> <p>●収蔵スペースの確保や収蔵庫の維持管理については、予算措置の必要性も検討しながら、先を見据えた対応を行ってまいります。(県)</p> <p>●県立美術館は、美術家・来館者・学芸員など、そこに集うすべての人々が互いに学び合うことのできる美術館として運営することで、県民をはじめとする多くの人々の豊で文化的な生活と、創造性あふれる人づくりに貢献できると考えております。(指定管理者)</p> <p>●最近では、文化と共にある観光分野に焦点があてられがちですが、美術館とは社会教育施設でもあるという認識のもと、児童・生徒の感性を育む施設としての活動にも力を入れて参ります。(指定管理者)</p>
-------------	--	---